



開催セミナー	2015年度第2回ティーチング・アシスタント (TA) 研修会
日時	2015年9月30日(水) 14:00~15:30
場所	神山ホール3F第1セミナー室
参加者	本学TA及び教職員43名 (TA32名、教職員11名)
内容	<p>TA研修会を、大学院事務室・教学センター・教育支援研究開発センターの共催で実施した。</p> <p>第1部 「TAに関する実態・実感調査」結果の共有 【報告者】 山内 尚子 (学長室・教育支援研究開発担当)</p> <p>2014年度春学期に実施された「TAに関する実態・実感調査」の分析結果と、支援を受けた学部生のコメントが紹介・共有された。</p> <p>第2部 TAによるグループディスカッション 【進行】 中沢 正江 (学長室・教育支援研究開発担当)</p> <p>文理学部と理工学部毎にTA経験者・新規TAがグループに分かれ、職員ファシリテータ*と共に、春学期のTA活動の振り返りや、TA同士のノウハウの交換、理想とするTAなどについてグループディスカッションを行った。ディスカッション終了後、各自が「TA業務で私が受講生のために大事にしたいこと」を一言にまとめ、表明し合った。</p> <p>*本研修会では、学長室(教育支援研究開発担当)職員らがコーオペ教育研究開発センターF工房のファシリテーション研修を受け担当した。</p>

参加したTAの声より

「学生との距離感の保ち方について気づきを得られた」や「自分のがんばりたいこと、気をつけたいことを再確認できた」などの声が寄せられ、本研修会は、TA経験者・新規TAいずれにとっても、秋学期からの授業支援を行うための理解向上に役立った。

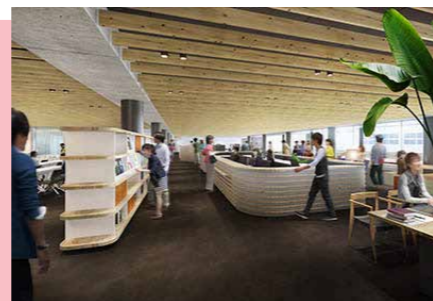
開催セミナー	私立大学キャンパスシステム研究会 (CS研) 第一分科会「教職学協働による正課、正課外の学び支援」
日時	2015年10月22日(木) 13:00~16:40
場所	雄飛館ラーニングcommons2階 パフォーミングスペース
参加者	本学・学外教職員46名 (教職員29名、学生3名、企業14名)
内容	<p>CS研の第一分科会研修会が本学で実施され、学生の学びを教職学協働で支援する本学の事例紹介が行われた。</p> <p>第1部 先輩学生や職員が「ファシリテータ」として参画する授業紹介 【報告者】 鬼塚 哲郎 <small>(文化学部教授・コーオペ教育研究開発センターF工房事業統括)</small></p> <p>先輩学生や若手職員がファシリテータとして受講生の活動を支援する、本学の初年次キャリア教育科目「自己発見と大学生活」と低単位・低意欲層の学生を主な対象にした科目「キャリア・Re デザイン」が紹介された。ワークを通じた質疑応答では、学生ファシリテータの廣岡奨平さん(法学部)、南太貴さん(経済学部)、橋本宗侃さん(文化学部)らも自身の経験を交えて質問に応え活躍した。</p> <p>第2部 雄飛館ラーニングcommons紹介・学生向けワークショップ体験 【報告者】 辻村 誠矢 (学長室) / 千葉 美保子 (学長室)</p> <p>2014年に「学びの場」として開設された雄飛館ラーニングcommonsのコンセプト設計や、現在までの利用状況、学習支援サービスなどを紹介し、学習支援員による学生向け日本語ワークショップを体験するワークを実施した。</p>

参加した教職員の声より

ファシリテーションを用いた授業への新たなアプローチや、正課外の学びを支援する本学の活動について、「学生に協力してもらえるという点が、新しい視点でした」や「学生もこうやって体験・成長していくのだと思いました」など高い関心をいただきました。

新校舎に“グローバルcommons”誕生

2016年4月完成予定の新校舎1階部分に“グローバルcommons”が誕生します。施設内では、各国言語の資料を閲覧できるほか、外国語会話ラウンジ、異文化交流イベントなど外国語を楽しみながら学習できるプログラムが数多く提供される予定です。授業以外でも外国語を使用できる機会が増えることで外国語との距離がぐっと縮まり、外国語の学習意欲やコミュニケーション力が自然とアップします。その他、専門スタッフによる英語個別学習支援など各学生のレベルに合わせたサポートが受けられます。



内部イメージ

CERADES News Vol.6 2015年12月発行
 編集 / 発行 京都産業大学教育支援研究開発センター
 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 Tel : (075)705-1729
 mail : kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp URL : <http://www.kyoto-su.ac.jp/outline/approach/excellence/>

CERADES News

~学生と「対話」する、学生が「対話」する大学~



「私が受講生のために大事にしたいこと」を共有するティーチング・アシスタント

学生FDスタッフAC燦からのメッセージ

こんにちは！学生FDスタッフAC燦(SAN)の田村と佐藤です！
 私たち“燦”は、『京都産業大学をもっとよくしたい！』という思いから、教育改善・大学改善を目的とし、セラデス職員の皆さんと連携し活動しています。

来る1月8日(金)5限には「京産共創プロジェクトIV」を開催します。学生・教員・職員の三者がどうしたら大学を良くできるのか、互いの立場を超えて意見交流ができる場を提供します。テーマはシラバス。学生は本当にシラバスを見ているのか？楽に単位を取れる科目選だけなのか？少なくとも、学生は授業選択でシラバスを使っています。当日は、どんなシラバスがあれば、学生は学びたいという意欲を持って授業を受講するのかを議論し、その結果を大学にフィードバックします！

京都産業大学を学生・教員・職員で創り上げる京産共創、是非いらして下さい！



京都産業大学学生FDスタッフAC燦 マスコットキャラクター SUNちゃん



経営学部3年次 田村 玖美(代表) 経営学部3年次 佐藤 里奈(副代表)

Contents

p2 教員と学生の対話がもたらす教育改善 学生の声を届ける「対話シート」の効果を紹介いたします！

p3 雄飛館ラーニングcommons 学生の主体的な学びを正課内外で支援しています！！

p4 FD活動の推進 —さらなる教育の進化に向けて— 2015年度第2回ティーチング・アシスタント(TA)研修会 私立大学キャンパスシステム研究会(CS研) 第一分科会「教職学協働による正課、正課外の学び支援」

新校舎に“グローバルcommons”誕生

CERADES Newsは、京都産業大学の特色ある教育・学習の実践事例を紹介することを目的とし、企画・取材・デザイン等の全てをセラデススタッフで製作している刊行物です。
 CERADES(セラデス)は、教育支援研究開発センターの英語名称 Center for Research and Development for Educational Support の略称です。

教員と学生の対話がもたらす教育改善

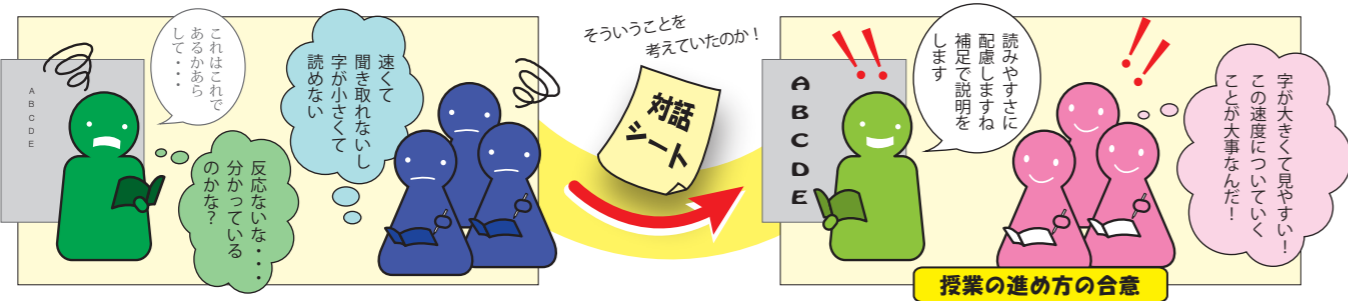
学生の声を届ける「対話シート」の効果を紹介します！

教育支援研究開発センターでは教育の質向上の一環で、学内の優れた取組みを収集し、学内外に向けて情報発信しています。そこでキーワードとなるのが「対話」です。本学では「言葉を通して率直に話し合う中で、お互いの差異を擦り合わせ、何か新しいものを共に創っていくこと」を「対話」と呼んでいます。対話を通じた学び支援のうち、「対話シート」に焦点をあてて分かりやすく説明します。

教員 - 学生間の授業に関する対話シート

目的

「対話シート」は教員と学生が授業内容・進め方について、対話をするためのきっかけとなるツールの一つです。学期途中で学生からの声に対し、教員からフィードバックを行うことで授業の調整を行うことを目的としています。



対話シートによる変化のイメージ

背景

2010年度開催の「学生と教職員が共に考えるFDフォーラム」では、学生にとっての「良い授業（教え方がうまい授業）」と教員にとっての「良い授業（コンテンツの良い授業）」に捉え方の違いがあることが分かりました。そこで、その差異を認識し、対話によって双方が歩み寄るためのシートが誕生しました。

効果

●教員から学生にフィードバックを行うことで、授業にポジティブな変化が表れています。

<教員の声>

・学生との対話を行うことで、学生同士のコミュニケーションが活発に行われるようになり、そのことが学生からの質問の増加という効果をもたらした。◀H27春経済学部（演習科目）：「対話シート」を使用▶

●実施後の「対話シート」を持ち寄り、「教員と学生間の対話促進」をテーマに、新任教員研修会を開催しました。

<教員の声>

・授業の「中間」時点で対話シートを実施することの意義を再確認することができまし、対話シートを利用後フィードバックすることの大切さもよく分かりました。【新任・助教・教育経験3～5年未満】

●「セラデスニュース（広報紙）」記事に、「対話シート」の活用方法・工夫を掲載し、学内外に向けて情報発信しています。



対話シート使用後の授業の様子▶



▲新任教員研修会の様子



セラデスニュース▶

◀文部科学教育通信に本学の取組みを連載中▶

「文部科学教育通信」（発行：ジヤース教育新社）にて、京都産業大学の「対話を通じた学び支援」の取組みを連載中です。教育支援研究開発センターHPにも原稿を掲載中ですので、ぜひご覧ください。



雄飛館ラーニングcommons

学生の主体的な学びを正課内外で支援しています！！



学習支援カウンターの活動

雄飛館ラーニングcommons学習カウンターでは、学生の学びを支援する目的で学習支援プログラムを提供しています。具体的には、(1) 個別相談、(2) ワークショップ、(3) ICT支援など、さまざまな要望に応じたプログラムを用意しています。(1) 個別相談、(2) ワークショップと秋学期に試行的に実施したカリキュラム連携ワークショップをご紹介します。

◎実践紹介 授業内出張ワークショップ 経営学部「外書セミナー」

今年度秋学期の経営学部初年次科目「外書セミナー」授業内において、英語/日本語のアカデミックライティングの基礎について学ぶワークショップを2回に分けて実施しました。図書館ホール・雄飛館ラーニングcommonsを会場として実施したワークショップでは、テーマの絞り方、アカデミックライティングに適した文章表現など、レポートの基礎的なポイントを、ワークを通じて学びました。



外書セミナーの様子▶



ご担当科目においてレポート作成やプレゼンテーションのワークショップを導入したい、個別相談との連携をお考えの先生方、随時ご相談を受け付けております

◎個別相談（英語/日本語）※平日の9:00～16:30(1セッション30分)

個別相談では、朱入れなどの添削指導 Proofreading（スペル・文法チェック）は行わず、学生が持参した資料やデータをPCモニターで共に見ながら、学生との「対話」を重ねることで、学生がアイデアを整理し、自ら疑問点やその解決策を探求し、考えを表現し、発信する力を養うよう支援をしています。



<参加者の声>

・レポートを書くことが（初めてで）不安だったんですけど、今回相談できて、不安もなくなりました。ありがとうございました。
・とてもわかりやすく、改善点が見つかりました！

◎ワークショップ（英語/日本語）

大学での学びに必要な知識・スキルの習得の支援を目的に、2014年春学期よりライティング・プレゼンテーション等スキルに関するワークショップをラーニングcommons内外で実施し、2015年度からは授業科目との連携の試行を進めています。



<参加者の声>

・いろいろ知らなかったアカデミックライティングのルールを学びました。
・30分でレポート作成について詳しく学べて、とても有意義に過ごしました。

教育機関での指導・チューター歴をもつ担当者が支援しています！

- ・英語ライティング・プレゼンテーション支援員（専門/言語学）
- ・日本語ライティング・プレゼンテーション支援員（専門/歴史学）
- ・ICT支援員（専門/美術）

<http://www.kyoto-su.ac.jp/global/lc/>

